

共にしあわせ産みだす日本共産党

# 市議団ニュース

No 1844  
2017年05月14日  
日本共産党根室市議団  
根室市宝林町4-203  
TEL 23-6023  
FAX 24-1684

## ゴールデンウィーク中

### 相次ぎ平和運動や集会

最大9日間となった今年の「ゴールデンウィーク」の最中、根室市ではメーデーをはじめ、憲法記念日講演会や反核平和運動が盛んに実施されました。

#### 88回メーデー

5月1日(月)午後5時45分から、第88回メーデー根室市集会在市常盤台公園で開催されました。この日は日中暖かな日差しもありましたが、夕刻には一けた台の気温まで下がる寒い中でのもとなりました。  
根労連傘下の労働組合と新婦人などの市民団体が結集し、約100人の参加となりました。  
根労連中山議長は「政府と財界の下で進められている労働政策では、過労死が増え、人間らしい働き方は、出来ない。8時間働けば人間らしい生活ができるルールを要求しよう」と訴えました。  
来賓としてあいさつした共産党の鈴木一彦委員長は「特定秘密保護法、戦争法と国会に出されている共謀罪。いずれも違憲立法を数の力で強引に押し進める安倍政権の危険性にストップかけよう。そのため、秋にも予想される総選挙、9月の市議選で頑張りたい」との決意を表明。その後、約30分のデモ行進でメーデーを終了しました。

#### 5・3憲法集会



(挨拶する細川代表)

ねむろ「九条の会」は、5月3日(水)午後3時から市総合文化会館で10回目の憲法記念日集会を開催しました。  
この集会は、「施行70年憲法記念日・共謀罪を考える講演会」をテーマに

「共謀罪DVD」視聴の後、「記者の眼から見た日本国憲法と共謀罪」の講演会を行いました。北海道新聞社・相内亮根室支局長が約1時間にわたりわかりやすく「共謀罪のもつ危険性」を解説しました。  
「DVD」では加藤健二弁護士(東京弁護士事務所)が「テロ等準備罪」と政府は言っているが「テロとは無関係の法律。何もやってはいなくても、やったことになる恐ろしい法律。政府も国際的にもテロ集団という規定はない」といっている。一般の団体、一般の人にも犯罪にされてしまう。」とその危険性を指摘しました。  
講演会で相内根室支局長は「マスコミでは、『テロ等準備罪』としているところと『共謀罪』としているところが異なる」と指摘。マスコミのスタンスで捉え方が違っている」と解説しました。また「過去3度廃案となっているが今回の共謀罪も277項目に対象が絞られているがその本質は変わらない」と指摘しました。「戦前に治安維持法が制定された時、対象になるのは『天皇制に反対する団体が対象』と答弁していたが、その対象がどんどん拡大、昭和16年には死刑という極刑まで導入され、特高警察等の『恣意』によって罪とされた歴史に学ぶことの大切さ」を訴えました。この講演会には、約45名の市民が参加しました。

#### 平和行進ノサップから

1945年8月の広島、長崎への原爆投下。世界の中で唯一の被爆国日本。この日本で「反核運動」が始まったのが1954年日本のマグロ漁船がアメリカの水爆事件により、「死の灰」を被ったビキニ環礁での「第五福竜丸」事件が契機となりました。翌55年「署名に示された日本国民の総意を原爆禁止に関する国際世論を確立する。」として原水爆禁止署名全国協議会が結成され今日まで運動が続けられています。被爆地へ向けた平和行進が日本列島の南北か

ら毎年5月に出発します。特に北海道は稚内(本コース)の他、最東端の根室納沙布岬、北海道最南端襟裳岬からのコースもあります。  
5月7日(日)午前10時に納沙布岬で根室コースの出発式と市内での平和行進を行いました。  
根室コースからの通し「行進者」は、札幌年金者組合の小川基弘(65才)さん。根室コースには、2013年、2015年にも参加しており「私の町から核兵器のない世界を」を合言葉に頑張っています。「今年、砂川市まで行進後、襟裳コースにも参加し、身体が続く限りやり続ける」と決意しています。

(納沙布岬での出発式)

